



FAMH (フィンランドメンタルヘルス協会) による

支援者のための支援ワークショップ

～東日本大震災後3年を迎えて～

支援者のための支援をテーマに FAMH(フィンランドメンタルヘルスケア協会)と支援者のための支援センター TOMONY との2年目の共同企画です。

昨年と同様シニッカさんが来仙。去年訪問した被災地域を再訪し、支援者のその後の活動や変化を確認後、「支援者のための支援のワークショップ(主に疲弊した支援者が対象)」を仙台市とも協力して開催するはこびとなりました。自分自身のために、活動をともしする仲間のために、そして被災者のくらし再生と被災地復興を引き続き支援するためにぜひご参加ください。

◎日 時：2014年 **3月15日(土)** 午前10時～12時
(受付：午前9時30分)

◎会 場：ノーバルビル1階研修室

◎参加費：500円(茶菓付き) 定 員：40名(定員になり次第締切ります)



講師：



シニッカ・
カアックリニエミさん

(Sinikka Kaakkuriniemi)

FAMH 支援活動開発担当部長/理事
看護師 保健士
ヘルシンキ大学にて健康科学修士

地元のメンタルヘルス協会(約60団体)とクライシスセンターにおけるサポートのためのボランティア業務を開発し、活動を多様化を目指す。FAMHの市民活動ユニットのディレクターも務めている。さらに広報活動及び教育を担当し、フィンランドのNGOと多くのコネクションがある。

参加お申し込み

FAX：022-299-4322

メール：office@tomonyjapan.com



会場：ノーバルビル1F 研修室

仙台市青葉区錦町1-5-1

○交通

- ・タクシー：仙台駅西口から約10分
- ・地下鉄：勾当台公園駅から徒歩7分
- ・徒歩：仙台駅西口から約20分

フィンランドメンタルヘルスケア協会 (FAMH)

ボランティアによる支援活動を30年に渡って開発してきました。支援活動は、1980年代初め「SOS-自殺予防センター」の緊急電話に答えることから始まりました。

まず着手したのは支援者への支援システムの開発でした。基礎トレーニングとスーパービジョンが必要なことは初期からはっきりしていました。現在、支援者への支援システムはケアの意義や、また支援者への感謝を示すものとなっています。

主催：支援者のための支援センターTOMONY

協力：仙台市

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8F みやぎ生協内 tel:070-5623-4408